

# 兵庫県加東郡滝野町方言の 比喩語について

黒崎 良昭

はじめに

1. 調査対象地：滝野町は兵庫県南部のほぼ中央にあり、加古川の中流域に位置する。主産業は農業であるが、専業はほとんどなく、多くはサラリーマンとして町内外に勤めを持っている。最近は、町内に大規模な工業団地ができて、町外からも人が移り住むようになり、人口は増えつつある。
2. 調査年月日：①1992年8月18日午後2時～4時 ②1992年11月6日午後7時～9時 ③1992年12月25日午前10時～12時 <以下補充調査> [④1992年7月26日午前9時～11時 ⑤1992年8月19日午後2時～5時]
3. 話者：①滝野町高岡 阿江五月子 大正15年6月生れ(66歳) ②滝野町上滝野 芦生登代 大正10年1月生れ(71歳) ③滝野町下滝野 大久保博司 大正13年7月生れ(68歳) <以下補充調査> [④津名郡北淡町野島藪ノ浦 奥野せつ子 大正13年3月生れ(68歳) …以下(篠)と略記 ⑤多可郡加美町豊部 寺尾ちよ子 大正元年10月生れ(80歳)・竹本美代子 大正3年9月生れ(78歳) …以下(加)と略記]。
4. 調査者・調査場所：黒崎良昭・すべて話者自宅
5. 調査方法・調査時の様子：絵カードの利用、または口頭の質問による一問一答式の調査を行った。①～③については、特に話者とは旧知の間柄であり、同一方言話者でもあるので、調査はスムーズに進んだ。

## I (自然現象)

- 1 日照り雨 キツネノヨメイリ (狐の嫁入り) <名> 全年層 盛
- 2 入道雲 ニュードーグモ (入道雲) <名> 全年層 盛
- 3 旋風 ツムジカゼ <名>
- 4 霜柱 シモバシラ <名>
- 5 つらら ツララ <名>
- 6 北斗七星 ヒシャクボシ (柄杓星) <名> 老年層 稀
- 7 昂 スバル <名>
- 8 流れ星 ナガレボシ <名>

## II (動物)

- 9 かわはぎ カワハギ <名> (篠) ハゲ <名>

- 10 ひらめ ヒラメ<名>
- 11 ひきがえる カエル<名>
- 12 青大将 エーノヌシ (家の主) <名> 老年層 稀 昔はどの家にも一匹はいたとか。クツナ (朽ち縄、口縄の転) <名> 老年層 稀 (漢) グチナ<名> 老年層 稀 ベラグチナ (縞になった蛇、魚のべらと模様が似ているところから) <名> 老年層 稀 ネズミトリ<名> 老年層 稀
- 13 とかげ ヘビノオバハン (蛇のおばさん) <名> 老年層 稀 とかげがいると、その近くに蛇、または蝮がいる可能性が高かったと言う。子供時代の言葉。
- 14 いもり ミズスマシ (水澄まし) <名> 老年層 稀 (漢) タロベ<名> 老年層 稀
- 15 かまきり モットイムシ (元結い虫) <名> 老年層 稀 その腹から出る黒色の糸状の虫が、昔髪の毛を結っていた元結いに似ていたところから。(漢) ホトケサンノウマ (仏さんの馬) <名> 老年層 稀 盆に仏様を乗せて来ると考えられていた。
- 16 みずすまし ゴーマイムシ (独楽虫) <名> 老年層 稀 独楽のようにくるくる回るから。マイマイコンコン<名> 幼児語。その動作から。
- 17 あめんぼ ガタガタ<名> 老年層 稀 水の上を手足をガサガサ動かして動く様から。アメリカ<名> 老年層 稀 手足を広げた様子が米の字に似ているから。
- 18 きつつき キツツキ<名>
- 19 せきれい チンチンドリ<名> 老年層 稀 河原の石を尻尾で叩く様から。その様子が昔の足踏み式の稲こきの動作に似ていることから、力のない人が一生懸命稲をこく様を<アノ ヒト チンチンドリ シトツテヤ。>のように表現した。
- 20 ふくろう ノリツケホーセ (糊付け干せ) <名> 老年層 稀 「ノリツケホーセガ ナッキョ。アシタワ ヒヨリヤ。センタクシテ ノリ ツケヨ。」(梟が鳴いている。明日はいいお天気だ。洗濯をして糊を付けよう。)

### Ⅲ 〈植物〉

- 21 馬鈴薯 ジャガイモ<名> 新 ニドイモ (二度芋) <名> 古
- 22 とうもろこし ナンバ (南蛮) <名>
- 23 いんげん豆 サンドマメ (三度豆) <名>
- 24 そら豆 ソラマメ<名> オタフクマメ (お多福豆) <名> 老年層 稀 古 大ざやの種類を特にこう呼ぶ。形が似ているところからの名付け。
- 25 木くらげ キクラゲ<名>
- 26 げんのしょうこ ゲンノショーコ<名> (加) イシャイラズ (医者要らず) <名> 老年層 稀 (漢) イシャダオシ (医者倒し) <名> 老年層 稀
- 27 アロエ イシャイラズ (医者要らず) <名> 老年層 稀
- 28 どくだみ ジュウヤク (十薬) <名> 老年層 稀 薬効が多岐にわたるところから。
- 29 いたどり ダンジク<名> 古 イッタンドリ<名> 新

- 30 すいば ウシノスイスイモン (牛のすいすいもの) <名> 老年層 稀 大振りで、  
噛むと酸い味がする。
- 31 からすうり カラスウリ <名>
- 32 すみれ スミレ <名>
- 33 彼岸花 カジバナ (火事花) <名> 老年層 稀 新 イエヤキバナ (家焼き花)  
<名> 老年層・稀・古 いずれも花の真っ赤な色からの名付け。家に持って入ると  
火事になると言う迷信もあった。
- 34 えのころ草 ネコバヤシ (猫ばやし)・ネコジャラシ (猫じゃらし) <名> 中・老  
年層 猫をからかうのに用いた。カエルツリ (蛙釣り) <名> 中・老年層 稀
- 35 春蘭 ジババ (爺婆) <名> 老年層 稀 花の中が割れ、腰の曲がったお爺  
さんとお婆さんが抱き合っている様子に見えるから。(雑) (加) ジババ
- 36 母子草 ホコグサ <名> 「ハハコグサ」の転。
- 37 ねむの木 ネムノキ <名>
- 38 たらの木 ヨメタタキ (嫁叩き) <名> 中・老年層 盛 表面が、固くて大きいと  
げで覆われているところから。

#### IV (性向)

- 39 熱しやすく冷めやすい人 イットキオンナ (一時女)・イットキオトコ (一時男)  
<名> 老年層 稀 下 ミッカボーズ (三日坊主) <名> 全年層 盛
- 40 あわてん坊 アワテガミ <名>
- 41 動作の鈍い人 ノロマ <名>、ノソ <名> (雑) ナメクジニ イカリ ツケタヨーナ  
ヒト (なめくじに錨を付けたような人) <名> 老年層 稀
- 42 嘘つき ヒヤクイチ (百一) <名> 老年層 稀 本当のことは百の一つ。「ヒヤ  
クイチチャン」とも言う。サンビヤクダイゲン (三百代言) <名> 老年層 稀 (雑)  
センミツ (千三つ) <名> 老年層 稀
- 43 ほらふき オーブロシキ (大風呂敷) <名> 中・老年層 盛
- 44 おしゃべり ホソーキョク (放送局) <名> 中・老年層、カヤクガ オーイ (加  
葉が多い) <名> 老年層 稀 「カヤク」は、かやく飯の具。余計なことを言い過  
ぎる人のこと。(雑) スズメノ オマツチャン (雀のお松ちゃん) <名> 老年層 稀
- 45 冗談言い イチビリ <名>、チョケ <名>
- 46 口先だけの人 フロヤノカマ (風呂屋の釜) <名> 中・老年層 稀 ウドンヤノカ  
マ (うどん屋の釜) <名> 中・老年層 稀
- 47 とんちんかんことを言う人 カッジャノツチ (鍛冶屋の槌) <名> 老年層 稀  
鍛冶屋の槌は「トッテンカン」。ケットンマ (狐と馬) <名> 老年層 稀 (雑) キ  
ツネ ウマニ フセタヨーナ ヒト (狐を馬に乗せたような人) <名> 老年層 稀
- 48 のらりくらり煮えきらない人 ヒョータンチマズ (瓢箪鯉) <名> 老年層 稀 瓢

筆で鯨を押えつけても、のらりくらりと逃げてしまう。カマノ キレン ヒト  
(鎌の切れない人) <句> 中・老年層 盛 (加) ノレント オッシャイ (暖簾と押し合い) <句> 老年層 稀

49 怒りっぽい人 カンテキ (七輪) <名> 中・老年層 (加) カンテキモチ <名>

50 気むらな人 オテンキモン (お天気者) <名> 中・老年層

51 泣き虫 チクオンキ (蓄音機) <名> 老年層 稀 泣いている子供には「アンマリ ナッキョウツラ シリニ オーガ ハエル デー。」(あまり泣いていたら尻に尾が生えるぞ) と言って脅した。

52 おてんば娘 オトコバッサン (男はっさい) <名> 老年層 稀 オトコオナゴ (男女) <名> 老年層 稀

53 腕白坊主 ヤンチャボーズ <名>、ゴンタレ <名>

54 出しゃばり デシャバリ <名>

55 どこへでも顔を出す人 タバコボン (煙草盆) <名> 老年層 稀

56 家にこもって外出しない人 ヒッコミヤ <名>

57 小心者 オトチ <名> (加) ミトチノキモ (めだかの肝) <名> 老年層 稀

58 内弁慶 ウチベンケーノ ソトスポリ (内弁慶の外すぼり) <句> 中・老年層  
「スボル」は小さくなるの意。

59 人づきあいをししない人 ヘンコツ・ヘンコ (偏屈) <名>

60 妻に対して頭の上がない男 ザブトンオトコ (座布団男) <名> 老年層 稀 カカテン (娼天下) <名> 老年層 稀

61 夫を尻に敷く妻 オンナタイコーハン (女太閤さん) <名>

61 けち ホトコロカラ テー ダスノンモ キライナ ヒト (懐から手を出すのも嫌いな人) <句> 中・老年層

62 欲張り ガニクライ (蟹食らい) <名> 老年層 稀 下

63 威勢がよい アウチカゼ (あうち風) <名> 老年層 稀 「ガイヨー アウチカゼニ アテラレタ。」(すうかり威勢のよさに圧倒された。)

64 怠け者 アブラトリ (油取り) <名> 老年層 稀 「油を売る」と同じ発想か。

#### V (食生活)

65 大食漢 オーメシグライ (大飯食らい) <名>

66 ぼたもち オハギ (お萩)・ボタモチ (牡丹餅) <名> 全年層 盛

67 砂糖味が薄い サトーヤノ ワド ハシル (砂糖屋の門を走る) <句> 老年層 稀  
(加) サトー タカイ (砂糖が高い) <句> 老年層 稀

68 塩味が薄い (加) ヌケタヨーナ <句> 中・老年層 盛

69 大酒飲み ソコナシ (底無し) <名> 若・中・老年層 盛 新 ジョーゴ (漏斗) <名> 老年層 稀 古 「上戸」ではなく、底が無いからいくらでも入る「漏斗」

の意。(類)タル(樽)〈名〉老年層 稀 「アラ タルヤ デー。」(あの人は大酒飲みだよ。)

- 70 酒に酔ってくだをまく(人) オートラ(大虎)〈名〉中・老年層 盛  
71 酒に酔って顔が赤くなる、そのさま キントキ(金時)〈名〉老年層 稀 ユデダ  
コミタイニ(茹で蛸みたいな)〈句〉若・中・老年層 盛 (加)ベンケーコロイリ  
ナ(弁慶ころいりな)〈句〉老年層 稀 「コロイリ」の意は不明 (類)シュテン  
ドージミタイナ(酒呑童子みたいな)〈句〉老年層 稀

#### VI (動作・様態)

- 72 恥ずかしくて顔が赤くなる、そのさま カオガ アコーナル〈句〉  
73 どしゃ降りの雨 シャジク(車軸)〈名〉老年層 稀 バケツデ アケタヨーナ(バケツで撒いたような)〈句〉中・老年層 稀 (類)タル ヒックリカエシタヨーナ(樽をひっくり返したような)〈句〉老年層 稀  
74 ずぶ濡れ・びしょ濡れになる、そのさま ヌレネズミ(濡れ鼠)〈名〉全年層 盛  
75 服装がだらしないさま ニタヤマナ カッコー〈句〉老年層 稀 「ニタヤマ」は  
仁田山袖で、本物の袖に似ているが粗悪であることから。(『播磨方言拾綴』)  
76 髭がのび放題なさま クモスケ(雲助)〈名〉老年層 稀 下 (加)コジキヒガ(乞食髭)〈名〉老年層 稀 下  
77 厚化粧をしている人 カベヌリ(壁塗り)〈名〉老年層 稀 カイトラ オチル(搔いたら落ちる)〈句〉老年層 稀 (加)ヤクシャミタイナ(役者みたいな)〈句〉  
老年層 稀  
78 色の黒い人 タドン(炭団)〈名〉中・老年層 稀  
79 背丈の高い人 イッケンドー(一間どう)〈名〉老年層 稀 「どう」は「人」か。  
デンシンバシラ・デンシンボー(電信柱・電信棒)〈名〉中・老年層 盛 (加)ニュー  
ドーホド(入道ほど)〈句〉老年層 稀  
80 ずんぐりした人 ドンコミタイナ ヤツ(鈍甲みたいな奴)〈句〉中・老年層 下  
「ドンコ」はハゼ科の淡水魚。  
81 死んだ人 メゲモン(めげ物)〈名〉老年層 稀 「めげる」は壊れるの意。  
82 出びたい デコ〈名〉「オデコ デンデン カサイラス(傘要らず)」と囁す。  
83 ものもらい メボ(目疣)〈名〉全年層 盛 目の疣  
84 汗が額から流れ落ちる アセガ タキンナル(汗が滝になる)〈句〉老年層 稀  
85 目を丸くする ハトガ マメデッポー クロクヨーナ(鳩が豆鉄砲食らったよう  
な)〈句〉中・老年層 盛  
86 口をとがらす フクレル〈動〉 (加)サイバシミタイナ クチ(菜箸みたいな口)  
〈句〉老年層 稀 菜箸は普通の箸より長い。  
87 小首をかしげる コッピンカタゲル(小髻かたげる)〈動〉老年層 稀 「小髻」

は頭の左右側面の髪。

- 88 悪いくちびるの色 フナビイロ (ふなめ色) <名> 老年層 稀 「ふなめ」は桑の実で暗紫色である。
- 89 焦げ臭いにおい ヤグサイ <形>
- 90 遠廻り センリノマーリ (千里の回り) <名> 老年層 稀
- 91 末っ子 キムシリ (木むしり) <名> 老年層 稀 下 「キムシリ」とは元はカボチャや瓜などの末成りのことで、じっくり熟するのを待たずにむしられてしまうことから、「ワシラ キムシリヤハカイ チエモ ナイシ アカンノン キマツト。」(自分は末成り<末っ子>だから知恵もないし駄目なのは決まっている。)のように自己卑下の言葉として用いられた。普通は「オトンボ」が用いられる。
- 92 一生懸命頑張る メー ムイテ ハナ ムク (目を剥いて鼻を剥く) <句> 老年層 稀 下
- 93 膝ががくがくする ヌネガ ワラウ (脇が笑う) <句> 中・老年層 盛
- 94 精一杯 ツツイッパイ (筒一杯) <副> 若・中・老年層 盛

まとめ

当該方言における比喩語の調査結果は、以上の通りである。全体的に見れば、共通語語形以外の表現については、老年層において稀に使用される語(句)が大部分であることが分かる。調査は複数の話者を対象に行ったが、個人差も大きく、知識としては覚えているが今はもう滅多に使わないというレベルの語がかなり多く見られた。比喩語においても共通語化が急速に進んでいると言えよう。

最後に、以上の比喩語(句)を発想法の観点から分類してみると、次のようになる。

| たとえられるもの | 人間 | 動物 | 植物 | 物体 | 抽象体 |
|----------|----|----|----|----|-----|
| I 自然現象   | 1  | 1  |    | 1  |     |
| II 動物    | 2  |    |    | 2  | 5   |
| III 植物   | 3  | 4  |    | 3  |     |
| IV 性向    | 5  | 2  |    | 9  | 4   |
| V 食生活    | 1  | 1  | 2  | 1  | 2   |
| VI 動作・様態 | 1  | 3  | 2  | 12 | 4   |
| 合計       | 13 | 11 | 4  | 28 | 15  |

※上段の分類は、中村明「比喩と発想法」(『講座日本語と日本語講座 第7巻』1990年 明治書院)を参考にした。

この結果から、かなり広範囲にわたる発想から比喩表現が作られていることが見てとれる。比喩表現の面白さは、たとえる語とたとえられる語とのカテゴリーの差が大きければ大きいほど増加し、その効果も増すと考えられる。その意味から、今回のI~VIにはない「物体」が、たとえられる語の最高値を占めるのは当然と言えようか。

(くろさきよしあき 兵庫県立社高校)